

4 自由意見（自治会活動を行う上で、日頃感じていること等）

※記載された意見をテーマごとに区分して掲載しています。

※市に対する要望や質問で、現在行っている施策等については回答を記載しています。

成功事例
美化サポート事業の取り組みは、自治会内の美化意識向上に繋がった。
役員会には女性部、子ども会の正副部長が毎回出席している。
役員のなり手がいないため任期を1年にし、任務の軽減を図ることで対応している。軽減策をとっても、今後役員のなり手が無い場合は班持ち回り（順番性）も含めて検討する。
自治会の団結を狙い、55周年には「概要」を、60周年の今春は「しおり」を作成し、効果が見えたと自負している。
長い居住者ほど、リタイア後の協力は困難。新会員には早い時期に役員として迎え入れるように働きかけている。
子ども対象の行事を通して親同士のふれあいの機会を多くし、育成部の活動に関心を深め、発展として自治会活動への意識づけを行っている。
自治会加入の連絡があった時は、訪問して自治会のよさをPRし、早く慣れてもらうため、行事への参加を奨励している。
花壇整備の作業を日中から夕方に行ってみると、参加者の増加と人の入れ替わりがみられた。
副会長として責任と存在感を持てるように、各専門部の補佐役として副会長に専門部を割り付けた。部の活動が滞ったら声かけをする。
各部の活動の中で、女性部のカフェ活動、ひとり暮らしの方のつどい、子どもや高齢者の見守り活動を積極的に行っている。
顔を見られる機会をどのように作るか、一人でも集まりに参加させるにはどうするか、日頃から役員とコミュニケーションを取るようにしている。ただし、その効果は時間がかかって定着するものと自覚して進めている。
地区に新興住宅ができ、その居住者の8割は若い世代の方で子どもの数が増えた。会員の平均年齢が若返り、自治会行事、盆踊り、秋祭りなど盛会になった。
自治会内に市が推進・指導している美化推進委員を組織化した。総務部直轄とし、総務部長を含めて4人体制。
新住民に対し、自治会活動のパンフレットを作成し、直接持参し説明をしている。新しく入居される方と自治会員共々初対面では不安があるので、直接面談した方が良いと思い実行している。
自治会加入のメリットが少ないため、高めの設定であった会費を減額し、活動は限られた事項となったが、時々の変化で協議する。
北海道町内会連合会から「ひとりの不幸もみのがさない住みよいまちづくり全道運動」の助成を受け、ひとり暮らし高齢者世帯のマップづくりや、ひとり暮らし世帯や介護世帯を対象にしたサロンの取り組みを実施することができた。この運動を通じて、自治会開催の行事に積極的に参加呼びかけを行い、一人でも多くの参加者を確保するよう役員の活動が目立つようになった。

自治会未加入の問題
アパート・借家などに住まわれている方、よその地区から転居してきた方は、なかなか自治会に入ってもらえない世帯もある。自治会に入会すると、役員・班長などの役をするのが負担に感じている。
アパートなどは班長の役を辞退する人が多く、一棟未加入などということが起きている。
アパートに入居されている方の自治会加入率が低く、未加入者への啓蒙について非常に難しさを感じている。
新市営住宅に入居の頃を見計らってチラシを配ったが、結果加入した世帯が3分の1程度だった。
近年の風潮として、アパート入居者の自治会未加入が増えており、ごみ出しルールが守られない等の問題がある。未加入者への呼びかけ、自治会加入の意義をどう理解してもらうかが鍵である。お祭り等のイベントを通じて、町内会の一員として手伝ってもらうなどの取り組みも重要なのかなと思う。
未加入会員または退会者の対策に苦慮している。
ある集合住宅の入居者は、ほとんど単身または単身赴任者で自治会と親交をもってくれない。

担い手不足
自治会役員をしてくれる人が少なく、任期が終わっても再選され、役員が固定化しつつある。定年の延長やシルバー人材センターで働いている方、自営業の方は多忙で引き受けてくれ難い。
世帯数が少なく、また、高齢化のため役員の成り手が不足している。
少子高齢化の進展に加え、人口が減少してきて、自治会役員の成り手不足に拍車がかかっている現状にある。
特に会長職になり手がいない。市や連合自治会等の会議出席、要望のとりまとめ等、仕事量が多い。
役員を引き受け手がいない。
役員を引き受け手が少ない。若手が欲しいのだが…
会長が委嘱した役員に辞退者が続出し、会長はじめ役員の兼務が増えている。
活動人材の確保の悩みは共通している問題である。一度はみんなのためにやってみようという意識をどう広げればよいのか。
毎回、自治会長の選任に困っている。役員、班長は持ち回りの形をとっているが、高齢のため、あるいは健康上の理由により、持ち回りが崩れてきている。
役員成り手がいない。中でも福祉関係は困るほど少ない。
会員の高齢化で役員成り手がなかなか決まらず、役員改選の年は困っている。
高齢化により役員成り手がいない。
自治会役員成り手がいない。
自治会の高齢化が進み、役員成り手がいない。
若年層が少なく、役員成り手、行事の協力・参加が少ない。

役員（班長を除く）の成り手が少なく、役員改選の話し合いの時に苦慮している。
役員の成り手がいないのはどこの自治会でも同じ悩みだが、どこに問題があるのか。なぜ成り手がいないのか。そのあたりを市で分析してほしい。自治会でも「候補者」を探しているが、実際のところ本当にいない。
役員の成り手がほとんど無い現状をどう打開していくのが自治会の大問題である。名前だけお借りする役員部門もある。とにかく第一の課題であり、常に役員会で良策の検討を行って自治会活動の継続を図っている。
高齢化が進み役員になる方がいない。

少子高齢化
高齢化に伴う各種行事の参加者の減少。
子どもの激減と高齢者の急増により自治会行事にも大きな変化が生じてきた。人が集まらないのが障害となっている。
会員の高齢化。
子どもの数が激減し、祭りや子ども御輿もなくなった。
自治会の少子高齢化が進み、自治会活動の活性化を図るにも、最終的には「敬老対策」に行かざるを得ない。
年々会員の高齢化が余儀なくされている現在、お年寄りがお年寄りの面倒を見なくてはならない状況が進んでいる。この問題に対して、自治会として今後の対策、方向を考案する必要がある。
若い人がいるだけで雰囲気が変わるもの。このままでは人は街に集中し、部落は限界になる。

活動のすすめ方
単位自治会以外の行事が多すぎ、人集めに難儀している。最近の小中学生の部活が活発で、それに参加する父母の対応が多いため（特に土日祝日）、住民揃っての行事が行い難い。
世帯数減少に伴い収入が減り、活動が縮小されてきている。高齢化、会社勤務の方が増え、平日の活動がなくなり、活動の幅も狭くなってきている。
日常的な活動をどう計画していくとよいか。自治会全体のつながりを深めていく手立てについて悩んでいる。
単位自治会の活動より連合自治会の行事が多い。会長会議で意見を述べるが、何かと難しい。
イベントに参加者が少ない。（特に若年層）
個々に信頼関係ができて、集うことは敬遠する傾向が強い。
共助による福祉関係が不十分である。
役員への依存または無関心の傾向を変えていくため、どのような取り組みをしていけば会員ぐるみで自治会活動の活性化を図ることができるのか。

会長に頼りすぎる役員がいる。市への要望を自治会を通さずに行う会員がいる。これからの役員の協力体制について、不安がある。
役員を退いた前職は役員指導に徹して欲しいが、前役職を傘に会員・役員を圧迫する人がおり、自治会活動もやりづらい。特定の人に限られているが、どのように対処すべきか。
若い人の参加が難しい。人数も少ないが、仕事の都合で参加が難しい。
お祭りの手伝いなど、活動の人数が年々減っている。数年後には世帯数が激減するのでは…？
会議等が平日のため役員が出席できない。
個人情報等の問題が妨げになり、自治会活動に支障をきたすことが多い。
自治会の行事、総会等への参加者が減少している。また、参加者が固定化している。
行事への参加者が少なくなっている。
単身世帯、高齢者世帯が自治会活動に参加する施策を模索中。
世帯数減、高齢化などにより自治会行事（総会、親睦会、一斉ごみ拾い他）への参加人数が減少傾向にある。
自治会会員の高齢化により、寄付や募金を集めるのに困っている。各行事の参加者が少なく、大変である。
地域の外で働く住民が多いことと、住民の高齢化の問題が解決されない限り、自治会の活性化は難しいと思う。どうしようもないかも…と思う。
地域の特性上、商店関係者が多いが、店と住宅が別々の会員も多く、それぞれ居住地域の自治会にも加入している2重加入者である。そのため、自治会独自の行事等にはあまり参加せず、行事は古くから居住する人で成り立っている。高齢化が進み活動が停滞することが心配。
連合自治会の役割は何かが話題になった。単位自治会でさえ苦しんで活動している現状なのに、連合の事業で単位自治会をさらに追い込むことになれば、ますます役員の成り手がなくなることを痛感した。
働きながら自治会長をしているので、昼間の会議があるときは欠席する時があり、申し訳なく思う。

防災
防災上の諸課題（大雨、洪水などへの対応など）について
大震災を教訓に発足させた「自主防災組織」を具現化し、醸成させたい。
災害に対する現実的な対策をどう立てたらよいか。自治会員の高齢化を鑑みて苦慮している。避難対策といっても、住民一般の意識は高くなく、働きかけが難しい。
防災に対するマニュアルがない。

行政への要望
自治会未加入者に対する市からの勧誘と指導を、もう少し強く働きかけてほしい。
<p>小規模自治会故にコミュニケーションにかかせないため自治会だよりを毎月発行しているが、参考になる事例があればぜひ教示してほしい。</p> <p>→北海道町内会連合会のホームページ (http://www.d-choren.or.jp/) に平成 22 年度に行われた「町内会・自治会広報コンクール」受賞作品が紹介されています。平成 26 年度にも同コンクールが行われているところです。(総務課)</p>
除雪、道路整備、水道など基本的なインフラの整備維持を。
広報だて配布時に他団体の配布物を極力少なくしてほしい。
市からの助成金は連合自治会への各種負担金で無くなる。今後防犯灯の電気代も上がることから、自治会予算も厳しくなる。幹線道路の道路灯は市へお願いし、自治会分は撤去も考えている。
自治会運営、役員を選出方法など市の指導を期待している。
単位自治会だけでは地域振興には力不足であり、他の自治会ではどのような課題に対しどのように取り組んでいるのかという情報交流を含めて、連合自治会のあり方について調査研究を期待したい。
空き家対策
集会所の維持、修繕
市が中心となって防災訓練を実施してほしい。伊達市は有珠山の噴火、大雨による水害、地震による津波など多くの災害が予想される。それぞれの自治会が単独で実施しても形式的に終わってしまう傾向にある。
集会施設の大型補修について、行政で年次計画的に対応してほしい(屋根の塗装等)。※小破修繕等は自治会で対応している。
<p>世帯数が少ないので積み立ててはいるが、会館の修理、修繕費の助成があると助かる。</p> <p>→自治会館の新築・増築・修繕に対する補助制度があります。修繕は建設後 10 年以上の会館が対象で、1 棟当たりの工事費等の下限は 50 万円、上限は 150 万円で、工事費の 3 分の 2 を補助できます。詳しくは市総務課までお問い合わせください。(総務課)</p>
自治会未加入の問題、ゴミの不法投棄の問題は、自治会の力では限界に来ていると思われる。今後は行政からも、知恵と力を貸してほしい。現状のパンフレット等の勧誘等ではインパクトが弱く、もっと強いものをお願いしたい。ゴミの不法投棄の問題には、市の条例等を適用して進めてはどうか。
弄月館の無料提供

その他市の取り組みについて

自治会未加入者に対する敬老祝い金の取り扱い方をどうするのか？（市で届けるのか、自治会で届けるのか。）

→「高齢者はつらつ交流事業助成金」は各連合自治会に対して交付しており、敬老会の開催、対象者への記念品の贈呈など、活用方法は各連合自治会に決めていただいています。（高齢福祉課）

市役所は電話一本で対応してくれる（特に都市整備課、建設課）。

募金活動については、様々な課題があって現在パンフレットでの啓発に留めさせてもらっている。

予算の配分を見直し、一次産業を育成。田舎に住む人にはインセンティブをつけ、関東、関西方面の若者向けに空き家、空き地、農地情報を提供。これからの人手不足、インフレ時代に備える。田舎は不便ではあるが、安全をもとめる人も多いはず。

Ⅲ 考察・まとめ

社会の構造やライフスタイルの変化によって地域の連帯感が希薄化しており、自治会活動は様々な問題を抱えています。

アンケートの結果から、多くの自治会に共通する問題は、以下の3つであるといえます。

- ①未加入者の対策
- ②役員や活動の担い手不足
- ③少子高齢化による活動の停滞

それぞれの問題の対策としては、以下のようなものが考えられます。

- ①未加入者の対策
 - ・自治会活動についての情報発信、情報共有の取り組みを強化
 - ・アパート等の入居者対策として、宅建会社や所有者への協力を依頼
 - ・役員割り当ての免除、会費の減額措置などの柔軟な対応
- ②役員や活動の担い手不足
 - ・行事や日常の活動における新しい担い手の掘りおこし
 - ・班や部会の再編による役員数の減少
- ③少子高齢化による活動の停滞
 - ・近隣自治会や地域コミュニティに関わる他団体との連携

自治会活動をとりまくこれらの問題に対し、今後、住民と行政の協働により様々な方法を模索し、対策を講じていく必要があります。